福島工業高等専	門学校	開講年度	令和03年度 (2	021年度)	授業科目	ミニ研究					
科目基礎情報											
科目番号	0034			科目区分 一般 / 必修		修					
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位	数 履修単位	: 1					
開設学科	電気電子シス	テム工学科		対象学年	2	2					
開設期	通年			週時間数	1						
教科書/教材	指導教員から指示があります										
担当教員	鈴木 晴彦,全 教員										
1											

到達目標

- ① 目的を理解し、課題に対して必要な情報を探すだけでなく、情報の確かさなどの評価ができる。 ② 課題解決のための計画をて立て、調査・実行・再検討を自主的に遂行できる。 ③ 必要なコミュニケーションをとることができ、共同の作業を円滑に行うことができる。 ④ 活動内容や結果を文章にまとめ報告することができる。 ⑤ 活動内容や結果を文章にまとができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
① 目的を理解し、課題に対して必要な情報を探すだけでなく、情報の確かさなどの評価ができる。	目的を理解し、課題に対して必要な情報を探すだけでなく、情報の確かさなどの評価ができる。	目的を理解し、課題に対して必要 な情報を探すことができる。	目的を理解し、課題に対して必要 な情報を探すことができない。		
② 課題解決のための計画をて立て 、調査・実行・再検討を自主的に 遂行できる。	課題解決のための計画をて立て、 調査・実行・再検討を自主的に遂 行できる。	課題解決のための計画をて立て、 調査・実行・再検討の多くを自主 的に遂行できる。	課題解決のための計画をて立て、 調査・実行・再検討を自主的に遂 行できない。		
③ 必要なコミュニケーションをとることができ、共同の作業を円滑に行うことができる。	必要なコミュニケーションをとる ことができ、共同の作業を円滑に 行うことができる。	コミュニケーションをとることが でき、概ね共同の作業を行うこと ができる。	コミュニケーションをとることが 不十分で、共同の作業を行うこと ができない。		
④ 活動内容や結果を文章にまとめ 報告することができる。	活動内容や結果を適切に文章にまとめ報告することができる。	活動内容や結果を概ね文章にまとめ報告することができる。	活動内容や結果を文章にまとめ報告することができない。		
⑤ 活動内容を第三者に伝えることができる。	活動内容を積極的に第三者に伝えることができる。	活動内容を第三者に伝えることが できる。	活動内容を第三者に伝えることができない。		

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (C) 学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (F)

教育方法等

	指導教員の設定したテーマに基づいて,「課題を見つける」「計画を立てる」「調査する」「深く考える」「文章にま
	とめる」「報告する」「発表する」という研究をするために必要とされるプロセスを、自らが、またグルーブ活動のな
	かで経験することで,「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ」ことを目的としています。

ガイダン 24月の第1週に、「ミニ研究」の概要とスケジュールについて2年生全体に説明をします。第2週には、ALやPBL活動の目的について全体に説明します。その間に、テーマの公開、配属テーマの希望調査を行い、概ね第3週目から配属されたテ 4月の第1週に ALやPBL活動の目 マ(指導教員)のもとで実施します。 実施期間: 4月下旬〜2月中旬 ※開講期間が通年となりますが、その間で30時間をミニ研究の時間とします。実施日程は配属学生と指導教員間で調整し、実施期間内で任意のスケジュール(実施曜日や時間帯も含む)を組んで実施します。テーマによっては校外での活動や、30時間を越えての実施が必要な場合があると思われますが、その際は、指導教員、配属学生 実施日程は配属学生 両者の了解によって実施します。 「活動計画書」(5月末): 実施期間(4月下旬~2月中旬)内の実施スケジュールを指導教員・配属学生によって作成 提出します ルロンの。 ・「活動報告書」(毎回):活動内容を記録し(各自)、指導教員に提出し確認を受けてください。 ・「ミニ研究報告書」(実施期間内):教員の指導のもと指定様式に沿ってグループで作成し、指導教員と教務係に提 発表会:
・「ミニ研究発表会」(全体):12月中旬にポスター発表会・口頭発表会を実施します。なお、「第三者への発表」を目的とするため、学内者(在校生・教職員)・保護者等へ公開をします。また、来場者などによるポスター発表評価ポイントを集計しその結果を公表し表彰します。口頭発表に評価は別に定めます。詳しい日時・会場・実施方法について ・「成果発表」(テーマ毎または複数テーマ合同):指導教員のもと、任意な形式で成果発表(プレゼンテーション)を実施します。指導教員による「プレゼンテーション能力審査・評価」として実施します。なお、複数のテーマが合同で発表会を企画・実施することも可能です。 授業の進め方・方法 【令和2年度のテーマ】
トランプと数学 / "「正当に怖がる」とは何か~今、寺田寅彦に学ぼう~" / "ヒューマンエラーの原因とその防止策(認知心理学と行動経済学の視点から)" / 数学について深く理解する / 会社をつくる(福島本社編)/ スポーツを科学する / ブログラミングによるグラフの動画作成 / ペットボトルロケットの物理 / シェイクスピアの作品を、見て、読んで、楽しもう / グラフィックデザインを極めよう! ~Adobe Illustrator & Photoshop入門~ / 法的な考え方・解釈をしてみる / 英語と日本語の違いを捜そう / 文学における視覚効果の可能性Ver.4 ─漫画・アニメ化された日本近代文学作品を中心に ─ / VRの疑似体験の可能性を研究してみよう / 英文の精読・味読 / 物理実験を楽しもう / 大学入試を題材とした数学研究 / 英語教科書の中のSDGs探し / 小中学生向けモノづくり体験教材の開発 / Raspberry Piをはじめよう / 次世代の乗り物について考える / 時計について調べてみよう / 機械式時計を作ってみよう / ペーパークラフトでからくりの仕組みを知ろう / "電気自動車の世界をのぞいてみよう / 性化の表の動物でであるう! / 人工知能、機械学習を学ぶ / 品質工学的最適化設計にチャレンシ / "衛星画像で地球のようすや地域のようすを調べてみよう! / 本業研究のテーマを調べて理解する / "フラ語を探る (日本で意外と使われているフランス語を探してみよう! / カパディーのルールと必勝法を調べてみよう / 化学・材料の研究に取り組もう / "環境水中の有害物質の超微量分析を行ってみよう" / 食品中の美容成分を分析してみよう / 化学・材料の研究に取り組もう / "環境水中の有害物質の超微量分析を行ってみよう" / 食品中の美容成分を分析してみよう / Corporate ethnographyの専門書 「When You Say Yes But Mean No: How Silencing Conflict Wrecks Relationships and Companies... and What You Can Do About It」に挑戦 / 微生物の生命現象の解析 / 毎日はかる / 色をもった有機化合物を作ってみよう / 浜通りに花舞台 (花畑を中心とした庭園等)を造り、観光地化することを一緒に考えよう。/ 季節の花々の育て方を学び、体験し、開花の喜びを感じ、人々をいやす方法を考えよう。/ アクティブラーニングで英語学習 *特にTOEICスコアアップ・/ 全国の液状化危険度マップの作成 / 水循環装置を手作りしよう / 高専の近くの橋を調べてみよう ! / 防災・減災に関するオリジナルピクトグラムを創造しよう! / "いわきクエスト"をつくる Part2 ~いわき・ふくしまの成長・発展にむけての第1章~" / Multicultural Appreciation: Celebrations Around the World--How we are similar, how we are different / 複式簿 記述のよう / 猫根を料字する | 三研究は、グループでの活動が主となるので、十分にコミュニケーションを取りながら取り組むことが重要です。活 ^{令和}∠ 年度のテーマ】 ランプと数学 / "「正当に怖がる」とは何か〜今、寺田寅彦に学ぼう〜" / "ヒューマンエラ-☆珊学ヶ行動経済学の祖占れら)" / 数学について深く理解する / 会社をつくる(福島本社) -の原因とその防止策(認 ミニ研究は、グループでの活動が主となるので、十分にコミュニケーションを取りながら取り組むことが重要です。活動の中で、計画する・調査する・まとめる・報告する・発表するなどの経験を多く積んでください。これらの経験が、将来の「卒業研究」で活かせるよう積極的に取り組んでください。 注意点 指導教員による評価基準:取組み状況に対する評価点(情報収集,自主性,コミュニケーション,発表準備(ポスター制作・口頭発表練習など),報告書作成などを総合して)を75%、プレゼンテーションに対する評価点(概要,課題に対する理解度,発表姿勢,発表資料,質疑応答)を25%として評価し、60点以上を合格とします。 授業の属性・履修上の区分 <u>☑ アクテ</u>ィブラーニング □ ICT 利用 □ 遠隔授業対応 □ 実務経験のある教員による授業 授業計画 週 授業内容 週ごとの到達目標 二研究」の実施概要やスケジュールを理解する 1週 ガイダンス 1 2週 ガイダンス2 AL/PBL活動の目的などを理解する。 3週 -マ毎の活動 4週 -マ毎の活動 1stO テーマ毎の活動 5週 6週 テーマ毎の活動 7週 テーマ毎の活動 テーマ毎の活動 8週 前期 テーマ毎の活動 9週 -マ毎の活動 10週 11週 -マ毎の活動 12週 テーマ毎の活動 2ndO 13週 テーマ毎の活動 14週 テーマ毎の活動 テーマ毎の活動 15週 16週 1週 テーマ毎の活動

2週

3週

4週

3rdQ

後期

-マ毎の活動

-マ毎の活動

テーマ毎の活動

		-\H	1	I	フケッンチャ			
		5週			マ毎の活動			
				マ毎の活動				
		7週			マ毎の活動			
		8週			マ毎の活動			
		9週			マ毎の活動		成果を発表す	·る。 (ポマ
		10ì 11ì			研究発表会(3 マ毎の活動	学体) ター発表・口頭発表)		
	+hO	12)			<u>、時の治動</u> マ毎の活動			
4	thQ	13ì			<u>、ラジル新</u> マ毎の活動			
		14)		-	<u>、 </u>			
		15ì		_	<u>、ラシル新</u> マ毎の活動			
		16ì			(
モデルコラ	アカリキ			 学習	内容と到達			
分類	, ,,, , ,	<u> </u>	分野	<u>, 1 111</u>	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業組
刀泵			ハエ		THING	他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	以未起
						合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
						グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実		
						践できる。	3	
						書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に 収集することができる。	3	
						収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情 報を選択できる。	3	
						収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
						情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について 自己責任が発生することを知っている。	3	
						情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
						目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
	汎用的技能		汎用的技能		汎用的技能	あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	
						複数の情報を整理・構造化できる。	3	
						特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析の ために効果的な図や表を用いることができる。	3	
						課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
						グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・ 合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等 の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
						どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる	3	
分野横断的						。 適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
能力						事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
						結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現でき		
						る。 周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができ	3	
						る。 自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	3	
						目標の実現に向けて計画ができる。	3	
						日標の実現に向けて自らを律して行動できる。 目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
						日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる		
						。 社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動でき る。		
	態度・志	向 態	態度・志向	態度・志向		3		
	性(入間)	ל)	性		性	チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
					当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3		
						チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
		リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。				3		
						適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
						リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内	3	
						での相談が必要であることを知っている	3	
	総合的な	な学 終 き き き き き き き き き き き き き き き き き き	総合的な学 習経験と創 造的思考力	学 総合的な学 創 習経験と創 力 造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。 公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点			
	習経験と 造的思考				から課題解決のために配慮すべきことを認識している。 要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むこ			
						とができる。	3	

					課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。					
	提案する設計解が要求を満たすものである ないことを把握している。						んなければなら	3		
			経済続口	等的、 可能性	環境的、社会的、倫理 等に配慮して解決策を	里的、健康と安全、類 を提案できる。	製造可能性、持	3		
評価割合										
	指導教員点		他者評価		相互評価	ポートフォリオ	その他		合計	
総合評価割合	100		0		0	0	0		100	
取組み状況	75		0		0	0	0		75	
発表評価 25 0		0		0	0	0		25		